

組織経営で次代に挑む『空間構造メーカー』 積極展開でニーズを掘り起こし、技術力で対応

九州第一工業株式会社（代表取締役社長） 黒木俊明



斜め格子母屋工法『DI式スペースネット』で躍進 社長と常務の二人三脚で新領域を拓く 地元・九州から関東・全国へ。技術力に高い評価

DI式スペースネット工法で 実績築く

創業者兼先代社長である秋田清氏から「現場を仕切れる人間が、どうしても欲しい」と誘われ、当社・九州第一工業に入社したのが、平成28年のことでした。当時すでに、会社の事業基盤はある程度、確立されていた

たように感じていました。

設立来、中核事業に据えられてきたのが、体育館などの空間構造に用いられる大スパン構造鉄骨『DI式スペースネット』（一般名称…斜め格子母屋工法）です。天井を必要としない、デザイン性に優れた斜め格子状の意匠が特長的で、耐震性の面においても優れた性能を発揮する工法です。設計事務所、ゼネコンなど工事案件元請の多くの皆さまにも、そのメリットは広く知れわたっております。

私どもでは、本社をエンジニアリング拠点と位置づけ、設計ならびに施工管理・監督業務に専念する一方、構造物ユニット自体の生産は熊本・八代市内にあるグループ工場に委ね、また実際の現場での施工業務もそれぞれの地域を地盤とする鉄工所に依頼するなど、ネットワーク志向の事業展開を推進してまいりました。当社

ならではのビジネスモデルといってもよいのではないのでしょうか。

学校体育館をはじめ、公共体育館や給食センター、各種屋内運動施設、大空間構造物などに採用いただき、実績を重ね続けています。平成28年に起こった熊本地震においては、県内約100施設に及ぶ当社工法採用案件すべてに、何らの問題もなかったことが確認され、避難所として稼働し、地域住民の命と生活を守り抜きました。

また令和元年には、一般財団法人・日本建築センター（BCJ）からの認定も取得するなど、信頼性に優れた工法であることが公的にも認められ、よりいっそうの信頼獲得へとつながっています。

現場を取り仕切ってきた立場の人間として、大いなる誇りと自負を感じます。



社員の個性を伸ばす、 二人三脚の組織経営

時代が平成から令和へ変わるころから、常務取締役として経営の一端を担うようになりました。初代・秋田清に代わって代表取締役社長に就いたのは、令和4年のことでした。以来、現・常務取締役の大神幸雄との二人三脚で経営を回しています。

技術畑出身で経営者としての立ち位置の難しさを自覚している私にとって、大神常務は欠かせない存在です。彼は「私は、表に出ない補佐役た



「イブ」と謙遜しますが、ビジネスセンスや多彩な知識と豊富な人脈の持ち主で、相談すると必ず解決の糸口が見えてくるのです。もちろん、全てのケースで意見が一致するわけではありません。むしろ、ぶつかる場合が多い。ただ基本の方向性というか根本的な部分、社員が、この会社に入ってから、この会社で働いて良かったと思えるようにしなければならぬ、は同じなので、話しているうちに擦り合わせができていくのです。

そして大神常務とめざしているのが、風通しの良い社風。社員と経営陣



が横一線で様々な意見をぶつけ合いながら、明るく楽しくやっていくというスタイルです。指示待ちでなく、自分で考えて自分で動く大切さについて、私も経験してきました。若い後輩スタッフのひらめきや思いつきに感心させられたり、助けられたりしたことが何度もあったのです。最終的な判断は、もちろん経営陣が行わなくてはなりませんが、その前に、各自が自分の考えをもつて相談になる形にしています。

前社長 創業者が30年築いてきた良い部分は伝統として、きつちり継承しながら、若い人の良いところを取り込み、時代の流れに沿っていく。そのためには、私も大神常務も、固定観念を捨てなければならぬでしょう。社員全員に個性を発揮してもらう。私と大神常務が束ねる。そんな組織経営で会社を、さらに発展させたいと考えています。

本州進出へチャレンジ。 九州も「二丁目一番地」

新型コロナウイルスで揺れるなか、経営環境的には難しい時期を迎えました。が逆に、積極策に打って出ました。



それが、大神常務によるweb戦略です。なかでもメルマガ『DI NEWS 瓦版』効果は抜群でした。建築関係以外の方にもわかりやすく、表現がソフトで読みやすい。面白いとの反応、楽しみにしているとの感想も届いています。

この効果は、着実に業績へつながっていきます。DI式スベースネット工法の派生型のひとつで解放感と美観にあふれた空間構成を実現する『DI式ソアリングボックス』による「らせん階段」をはじめ、講堂や集会場、図書館といった施設などにも採用されました。

また建築ワークフロー『BIM (Building Information Modeling)』を駆使した特殊鉄骨構造の提案にも注力。設計者・意匠デザイナーの皆さまからの問い合わせ数も増えています。

会社設立来、30年超にわたって頑張ってきた九州市場は引き続き、徹底的にこだわっていく。加えてフロンティアである本州市場にも、積極的に乗り出していく。この経営戦略のもと、『空間構造メーカー 九州第一工業』をスローガンに掲げ、ニーズの取り込みを図ってまいります。

webの経営戦略的活用によって

常務取締役／大神幸雄

新型コロナウイルス禍で多くの企業が守りに入っていた時期、黒木社長も私も、逆に「攻めよう、ピンチをチャンスに変えよう」とポジティブに立ち向かいました。対面での営業が難しくオンライン会議がスタンダードになった状況を利用して、まだ営業が手をつけていないフロンティア＝関東・全国に飛び出せると発想転換したのです。

そして、泥臭く、できることをやろうと、名刺管理システムの情報を使ってメールマガジン『DINWS 瓦版』を発行、HPも刷新。私にITスキルがあったので、自社制作で余分な経費もかかりませんでした。

特にメルマガは継続的に読んでいただける工夫が欠かせません。一般の方にもわかりやすいよう、砕けた感じで親しみを持てる誌面を心掛けました。文体はソフトに、言葉使いや文末もリズミカルに。コンテンツも営業に寄せたネタだけでなく、笑えるようなコラム（当社従業員が披露する小ネタ「九州第一工業小

話」も設ける。現場の職人さんのコメントも挟んでビビットに。

これらの取り組みが、購読層を広げてくれました。経営者、営業、現場監督、事務スタッフなどいろいろなポジションの方が楽しみにしてくれており、評判は上々。配信停止のリクエストはほとんどなく、発信先は2500件を突破、営業活動へのアシスト（売れやすくなるように）へ結びつくためにも、さらなる内容充実をめざします。

HPもお客様とのつながりに視点を当てたサイトづくりに注力しました。会社概要、構造工法・技術、施工実績、SDGsへの取り組み、最新の施工事例を紹介するカタログなど、構成はもとよりほとんどの作業を社内ですべて完結。自分たちの熱量がダイレクトに届いているのではないでしょうか。

今後も、新しい取り組み（個人宅、商業ビルなど）の実績をスピーディーに掲載するなど、「鉄骨構造だけでなく、木造も含めて鉄以外にやれることもお手伝いできます！」と発信していくつもりです。



黒木俊明 くろき としあき

昭和38年生まれ。宮崎県出身。熊本YMCA学院 建築科修了。鉄工所勤務約20年間、鉄骨コンサルタント（自営）約5年間の後、平成22年に九州第一工業株式会社に入社し工務部長、常務取締役を経て令和4年、代表取締役社長に就任。常務取締役・大神幸雄との二人三脚体制で、新たな営業エリア開拓にチャレンジする

代表者 代表取締役社長 黒木俊明
常務取締役 大神幸雄
創業 平成6年
事業内容 鋼構造物工事、屋根工事、機械器具設置工事
所在地 〒819-0001 福岡県福岡市西区小戸4-29-50
電話 092-894-6800
URL <https://ksdi.jp>
資本金 1000万円